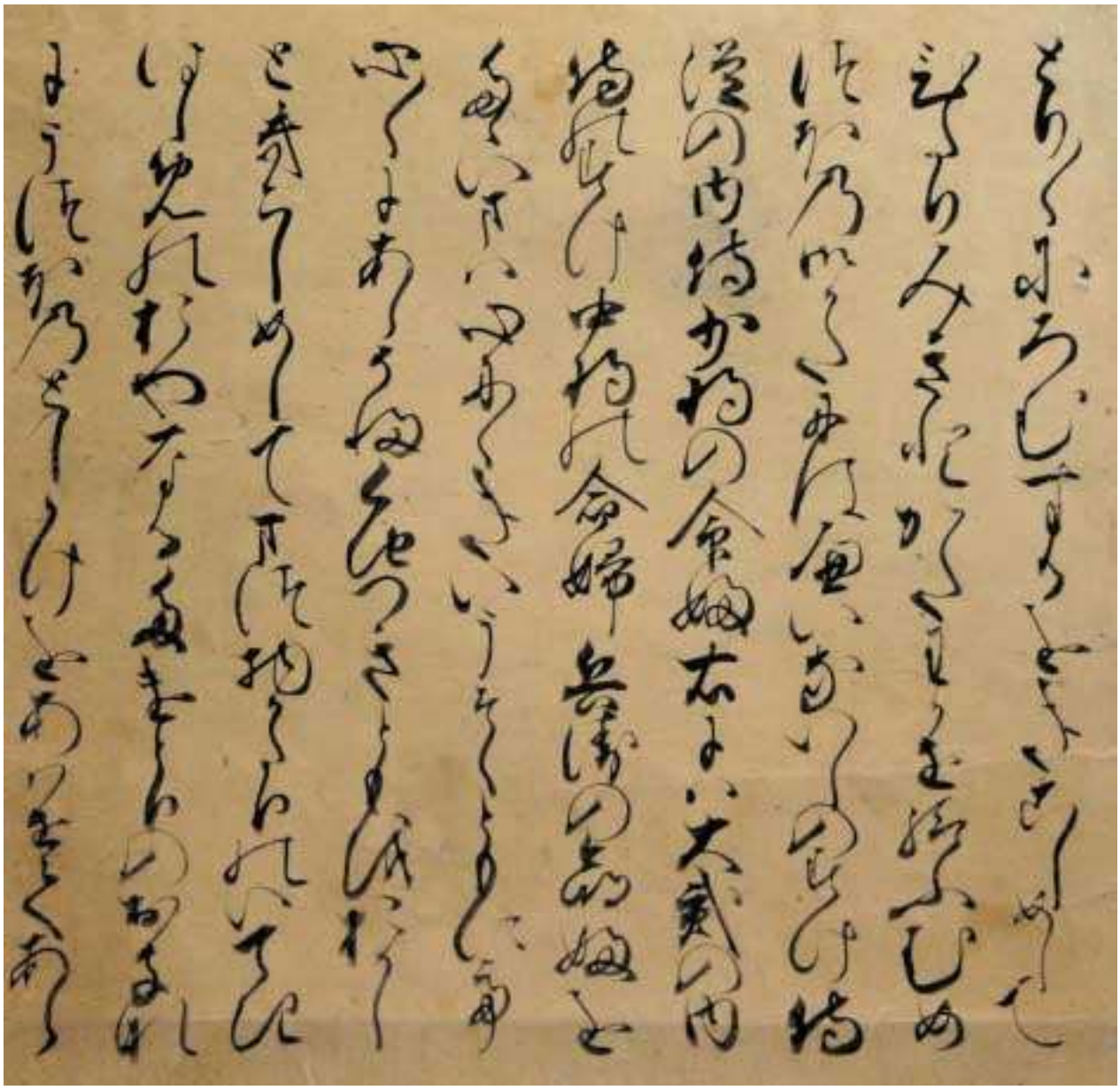
としょぶらり
米子高専図書館情報センター報

ISSN　1344－5634
第　79　号
平成17年７月１日発行
米子工業高等専門学校
図書館情報センター

◆資料紹介◆

三条西実隆筆『源氏物語』断簡



三条西実隆（１４５５年～１５３７年）は、室町時代の公家で、古典学者。『源氏物語』の注釈などを行う。写真のものは、『源氏物語』のうち「絵合巻」の一部である。実隆の日記『実隆公記』には、大永３年（１５２３年）に「絵合巻」を書写したことが書かれている。架蔵。江戸時代の鑑定家古筆了任（分家二代）による極め札が付いている。

（一般科目・原豊二記）

残酷なファンタジー

一般科目（数学）　大庭　経示

小村の三人の少年の前に忽然と美少年が現れる。彼の名は「サタン」。だが彼は、あのサタンではなく「天使」だと自分では言う。彼は不思議な力で、粘土で動物を作り出し、あらゆる果物が実り摘み取るとまたすぐ新しい実が実る木を生やす。そして、通常とは異なる論理を語りそれに従い行動する。果たして彼は、本当に「天使」なのか、それとも実は「悪魔」なのか…。

タイトルは『不思議な少年』。作者は「トム・ソーヤの冒険」などで有名な楽天主義作家マーク・トウェイン。そして、上のようなストーリー。これだけ聞けば皆さんはおそらく、明るく楽しいファンタジーのような内容を想像するだろう。

しかし、実は全く違う。

問題は彼「サタン」の語る「通常とは異なる論理」なのだ。例えば彼は言う。「人間がすることはドミノ倒しのようにAがBを引き起こし、そのBがCを引き起こすというように繋がっているので、実は自分の意思で何かを選択することはできない。どちらにしようかと悩むことさえ一枚のドミノで、悩んだ後何を選択するかも初めから決まっている」。例えば彼は言う。「良心があるために、悪も存在する。良心を持たない獣にはそもそも悪など存在しない。『人間は良心によって善悪を判断する』と人は言うが、悪を行うのは人間だけだ」。さらに彼は「自分を王様と信じている狂人は幸せだ」と言い、実際にそうしてみせる。彼のなすこと言うことは、とても「天使」とは思えないことばかりだが、その論理には否定できないものがある。

そう、実はこれは、人間機械論、人間不信、ペシミズム（悲観主義）に彩られた作品なのだ。この作品は、あのマーク・トウェインが晩年このような傾向に陥りながら残した最後の作品（遺作）なのである。

この原稿を依頼された時、私が最初に思いついたのはこの作品でした。しかし、果たしてこのような作品を若く希望に満ちた皆さんに紹介してよいものか、別のもっと楽しい本が相応しいのではないかとずいぶん悩みました。しかし、私がこの本に出会ったのがちょうど皆さんの年代であったこと、そして皆さんの中には既にこの本に書かれた「現実」に気付いている方も多いであろうと思い、この本を推薦することに決めました。皆さんの年代とは、愛や友情、思いやりなどだけでは語れない人間の在り様を知り、それと向き合い自分なりの世界観を構築するに相応しい年代ではないでしょうか。

しかし、この作品はテーマとは裏腹に、暗い雰囲気を持っていません。それは、「トム・ソーヤの冒険」などで知られる作者の持ち前の文体によるものだけでなく、作者自身がこのような悲観主義に陥りながらもそれを乗り越えようと苦闘したあとが見られるからでしょう。そもそも悲観的な内容でありながら、魔法を操る「不思議な少年」を登場させていることこそにその苦闘の跡が見られるのではないでしょうか。

マーク・トウェインには『人間とは何か』という同時期の作品もあります。こちらは、人生に幻滅した老人と若者の対話形式で書かれていますが、扱われているテーマはほとんど同じで緊密な相関関係がありますから、是非併せて読んで下さればと思います。

余談になりますが、「天才柳沢教授の生活」で知られる山下和美著の同名の漫画「不思議な少年」もあります。紹介した小説をモチーフに書かれたものですからこちらから始めても良いかもしれません。

「熱きよき時代を思う」

一般科目（体育）　北林　　保

「信は力なり」、この言葉は泣き虫先生こと、山口良治監督の言葉である。山口監督とは？ラグビー界屈指のスター平尾選手や大八木選手を育てた、そう、「落ちこぼれ軍団の奇跡　スクール・ウォーズ」の著者である。今の学生は知らないかもしれないが、我々世代は、「イソップ」といえば、童話よりも「スクール・ウォーズ」の印象が強いかもしれない（言い過ぎかな）。

「スクール・ウォーズ」を知らない学生に少し説明しよう。「この物語は、ある学園の荒廃に戦い

を挑んだ熱血教師達の記録である。高校ラグビー界において全く無名の弱体チームが、荒廃の中から健全な精神を培い、わずか数年で全国優勝を成し遂げた奇跡を通じて、その原動力となった信頼と愛を余す所なくドラマ化したものである。」と始まる名物ドラマである。山下真司が山口監督を演じ、梅宮辰夫や和田あきこ、松村雄樹といった豪華キャストによってドラマ化された感動実話のスポ根物語である。

自分はドラマを先に見て、感動し涙したことを覚えている。高校・大学とラグビーという競技を学び、ルールを知り、その面白さが分かるようになってきた頃、山口監督とはどんな人物だったんだろうと思い、山口監督の『落ちこぼれ軍団の奇跡 スクール・ウォーズ』を読んだ。著書では、昭和56年１月７日、第60回全国高校ラグビー選手権大会決勝戦当日から話が始まる。山口良治監督以下、京都市立伏見工業高校ラグビー部員73名が試合に向けて、宿舎から出発するところから話が始まり、「落ちこぼれ」「ツッパリ」と呼ばれてきた生徒たちが、高校ラグビーで日本一になるまでが描かれている。そこには山口監督の情熱、努力、手腕が荒れ果てた学園の生徒にラグビーを通して、夢や目的を与え、計り知れないエネルギーを引き出し、奇跡を呼ぶまでが描かれており、ドラマを見て感じた先生のほとばしるような熱さと優しさ、また先生の涙が本当に純粋だということを再認識するとともに、自分の中で無くなりつつあった熱き思いが再び蘇ってきたことを思いだす。教育とは何か？人と人のつながりとは？今の自分たちが忘れてしまった大切なものを思い出せさてくれる一冊である。
最後に、山口監督の印象に残る言葉をまとめておく。何か感じるものがあれば、幸いである。

✻「99％信じても、1％の不安があったらその通りになる。100％信じる事が大切。」

✻「教育って感動だと思います。子供たちのちょっとしたことに周りの大人が一緒になって喜んであげることが子供たちに感動を与えるための第一歩です」

✻「愛を感じたらこどもは変わる。自分に向けられた期待を感じたらがんばれる」

✻「誰が何を言おうが、涙のパワーは痛みも疲れも全部吹き飛ばしてくれます。今の世の中、みんな涙を失いすぎています、涙は誠なりです。」

✻「『体罰禁止』を錦の御旗にした無為無策な教師たちが学校を悪くする」

✻「僕は涙というのは素晴らしいと思うんです。みんな子供達に「負」をつける前に、涙が込み上げてくるぐらいの気持ちを出してやって、自分の思いが涙に変わっていくくらいの気持ちになってくれれば、もっと違ったものが生まれてくるんじゃないかな、伝わって来るんじゃないかと思うんです。僕に涙がたくさんあって良かったなと思います。」

未知のものへの憧れ

一般科目（数学） 蔵岡　誉司

普段は本を読まないのに、試験期間に入るとなぜか読書欲が高まる――これが高校生の頃の自分です。試験勉強しなければと理解していても、「仕方なくやらざるをえない勉強」を我慢する耐性がなかったのかもしれません。しかし、一方で入試を意識して準備をすすめる級友や授業内容に何か割り切れない思いがして、試験前の読書へ逃避していたように思います。

小説では自己の生き方を強く感じさせてくれるものを試験前の自分と重ねあわせながら読んだものです。島崎藤村の『春』や『破戒』では社会の不平等や人間の弱さが見事に表現されており考えさせられました。遠藤周作の「沈黙」では、ポルトガル人宣教師が穴吊りにされた隠れキリシタン信者たちの命を救うために踏絵に足をかけるときに聞くキリストの言葉、「踏むがいい、お前の足の痛さをこの私が一番よく知っている。踏むがいい。私はお前たちに踏まれるため、この世に生まれ、お前たちの痛さを分かつため十字架を背負ったのだ」、という場面を何度読み返したか知れません。また少年が成長していく様を表した五木寛之の『青春の門』シリーズを読んで、今後の自分の人生をいろいろと想像したりしたものです。北杜夫の『ドクトルマンボウ青春記』などのドクトルマンボウシリーズでは、うらやましい、こんな学校に通っていい青春を送りたいものだと憧れたりもしました。

数学に関する本はあまり読みませんでした。高

校生が読むことのできる本には限りがあることと、何しろ試験勉強からの逃避のための読書としては数学の本は重い（重量でなく内容が）ですよね。しかし、遠山啓の『無限と連続』は印象に残った本です。内容を理解していたとは思えませんが、大学受験のための数学とは明らかに違う“本物”に触れたような気がしたものです。もしかすると、数学教員になったきっかけになったかもしれません。

大学時代以降はあまり純文学を読まなくなりました。数学の勉強が忙しくなったり、サークル活動に精を出していたからです。この頃、背伸びをして読めもしない本を図書館から借りた記憶があります。フロムの『自由からの逃走』や、フッサールの現象学の本（題名は忘れました）、フロイトの『夢判断』やラカンなどの精神分析に関する本、クーンの『科学革命の構造』などです。同じサークルにいた哲学専攻の先輩の影響があったかもしれません。この頃、パラダイム理論という言葉が盛んに使われましたが、『科学革命の構造』はパラダイム理論のはしりとなった本です。これまた試験前に夢中になってしまい肝心の成績はさっぱりでしたが・・・。

青春の時期は、理解していなくても、それに興味を持っている自分自身を誇らしく思う時期かもしれません。自分の力も顧みず無理な本に手を出しがちです。私も多分に、そのような状況にあったと思います。現在、専門書を手にするとき、これは自分に読めるだろうか、と安全志向に片寄りがちな自分に気が付くとき、かつての背伸びをしていた自分が懐かしくもあり、またほろ苦くも思い出されるこの頃です。

当たり前ではない世界

一般科目（数学）　黒川　友紀

自分が存在している世界。それは当たり前すぎて、それについてあまり考えなくなりがちである。例えばここは３次元空間。横の広がりや奥行きだけでなく、「高さ」がある。これに疑問を持ったことがある学生はあまりいないだろう。しかし、この「高さ」を持った３次元という空間は、別の視点から見ると実に興味深い世界なのである。私が紹介したい本はこれに関した本である。

『多次元★平面国　ーペチャンコ世界の住人たちー』アボット著，森毅序，石崎阿砂子・江頭満壽子訳（東京図書）

私は高校時代にこの本に出会った。その頃はちょうど数学に興味を持ち始めた時期であり、教科書を離れた数学の世界を見てみたいと思い立ったのをきっかけに、教科書以外の本を探し始めた。しかし、高校生の私はそれまで教科書・参考書・問題集以外の数学書を見る機会がなく、思い立ったはいいが、本屋のどのエリアにお目当ての種類の本があるかもわからないような状態だった。そして何度か本屋に通った末になんとかして出会ったのがこの本であった。

タイトルからして「次元」、「平面」と数学用語が並び，数学的要素満載の予感がするこの本だが、実はそうとも限らない。まず、本自体は単行本サイズでそれほど厚くない。本文は縦書きの２段組に大きめの文字で書かれており、ところどころに挿絵もある。見るからに読みやすそうな構成である。読書があまり得意ではなかった私でも読んでみようという気になるような本だった。また、この本はほとんどなんの数学的知識も必要としていなく、ただ小説のように「読んでみたい」という気持ちさえあれば楽しんで読めるお話なのである。そして、次々に明らかになる平面国の様子に夢中になって読み進めると、知らず知らずのうちに「次元」のイメージが今までよりもずっと深まる。これはそんな不思議なSF数学小説である。

舞台は２次元の平面国、その名をフラットランドという。ここには「高さ」はない。これはどういうことか？例えばテーブルの上にパズルのピースが置かれているとする。我々が存在している３次元空間では、それを上から見ることによってその形を識別できる。この動作は「高さ」があるからできることなのである。しかし、２次元であるフラットランドでは、「高さ」がないから「上から見る」という動作自体できっこないのである。ではどのように物を見るのか？もっといえば、どのように生物が存在し、彼らがどのようにお互い

を認識し合うのか？本書ではこのような平面国の仕組みや暮らしを説明しつつ、ここでの人間社会が描かれていく。

この本を読む我々は３次元空間にいる。しかし、読み終わった頃には自分が２次元平面にいたかのような錯覚を覚えた。そこから改めて３次元空間に目線を移すと、「高さ」が特別なものであるように感じた。

考えてみれば似たような感覚は他の場でもあった。例えば海外旅行をしてみて初めて黒髪や日本文化の良さを認識したり、友人と離れてみて初めてその存在の大きさに気づく等。いつもと違う空間に自分を置くことで、いつもの世界を客観視したり重要視できる。本とは、このような貴重な体験を身近で実現する助けとなるものなのかもしれない。

本を読んで時間を有効に利用する

機械工学科　早水　庸隆

私が小さい頃、本とは苦痛以外の何者でもありませんでした。子どもの頃から読書が苦手で国語の成績もあまりふるわず、外で遊びまわっては帰宅が遅く両親に叱られたことを思い出します。母親によると私が小学校に入学するまで、母が毎日寝る前に絵本を読んでくれていたそうですが、私にはそのような記憶がなく、今にして思えば母親の読む絵本は私にとって子守唄のようなものではなかったのではないかと思います。

そんな私が本を読むようになったのは高専入学後、きっかけは父親に吉川英治著の『三国志』をすすめられた事でした。最初はわけもわからず、とりあえず手にしてはみたのですが、その本の厚さと文字の小さいことに驚き、全八巻という長さに気が遠くなる思いでした。とりあえず寝る前に眠気を増進させようと思い軽く読み始めてみると、眠くなるどころかその魅力にはまってしまい、夜更かしをすることもしばしばというようになってしまいました。吉川英治さんの作品の魅力は人を引き込む、その大きなスケールにあるように思えます。中国を舞台にしたその作品は地域の特徴の違いや、登場人物一人一人まで実に様々で詳細に書かれており、一度読んだだけではその素晴らしい魅力の半分も知ることが出来ず、地名や登場人物を覚えきることも出来ませんでした。かくゆう私も一回目より二回目、三回目と読めば読むほどその魅力に引き込まれるようになりました。また、登場人物の性格や癖が自分と一緒だったり似ていたりすることがあると、その人物に自分を重ね合わせて一喜一憂したり、心の中でこっそり応援するなどして、物語を楽しんだものでした。

私は歴史小説が好きで、最も好きな歴史上の人物は明治維新に貢献した坂本竜馬です。その半生を書いた司馬遼太郎著の『竜馬がゆく』もとてもおすすめです。なんと言っても竜馬には先見の明があり、その行動力には目を見張るものがあります。土佐藩を脱藩したとき、勝海舟に弟子入りしたとき、薩長同盟を成功させたとき、すべてにおいて竜馬は自ら能動的に行動していました。この事は現在でも非常に重要で、就職するにあたって皆さんのような学生に、企業は勉強や研究などで得た知識とともに、積極的に物事を進められる行動力を必要としています。また、竜馬はその当時の人には珍しく、国際感覚を持っていたようです。現代社会はグローバル化し、世界各国つながっていますが、竜馬は鎖国し孤立していた日本の中でも国際感覚があり、数少ない開国論者でした。高専生は英語が苦手な人が多く、私も含めて英語の勉強が必要です。私が英語の必要性を感じたのは大学で研究を始めてからでした。参考文献となる論文は日本語のものだけでなく、英語で書かれたものも多くありました。そういう本を目の当たりにする度に「英語が出来たらいいのに」と感じたものです。

皆さんは社会に出て行くために必要なことも、必要でないこと、良い事、悪い事、多くの事を学んでゆく事と思います。時間だけはみんな平等に与えられているので、有効に使うのも無駄に使うのもあなた達次第です。読書は空いた時間を有効に使え、多くの知識を得ることが出来るので、皆さんぜひ本を読んで時間を有効に利用してください。

米子高専文化セミナー報告

米子高専文化セミナーは、ビデオに撮影して、図書館にDVDで保存しています。貸出も可能です。

５月２８日に公会堂で文化セミナーがあり、越智先生の「宇宙を見るさまざまな目」という題で約２時間ほど講演がありました。

初めの間は物理というより歴史の講演みたいでした。ラスコー洞窟壁画から１２星座、ストーンヘンジなどの話になり、「なんか物理の講演ぽくないな」と内心思っていました。けれども、進んでいくと物理になっていきました。（当然ですね。）X線、γ線、宇宙シャワー。正直ちんぷんかんぷんでしたが、写真や図をまじえた説明でした。難しい論文とか見させられるのかな、と思ったらそうでもなく、まさに「物理らしくない物理の講演」でした。　（３年建築学科田村謙人）

新着図書の紹介

学生によるブックハンティングから

学生図書委員が書店まで出向き、手にとって選んできた本の中から紹介します。

５年物質工学科　松下　由佳

うつくしい子ども	石田衣良	文藝春秋
介護入門	モブ・モリオ	文藝春秋
とくまつ	清涼院流水	徳間書店

４年機械工学科　松浦　俊輔

ダヴィンチコード	ダン・ブラウン	角川書店
空の境界	奈須きのこ	講談社

４年物質工学科　生田　寛子

英語ができない私をせめないで	樋口裕一	ＰＨＰ研究所
僕は天使の羽根を踏まない	大塚英志	徳間書店
NHKにようこそ！	滝本竜彦	角川書店

４年建築学科　民野　敬子

魔性の子	小野不由美	新潮社
空色勾玉	萩原規子	徳間書店
白鳥異伝	萩原規子	徳間書店
薄紅天女	萩原規子	徳間書店

３年電気工学科　高橋　裕也

空想法律読本	盛田栄一	メディアファクトリー
空想非科学大全	柳田理科雄	メディアファクトリー
田宮模型の仕事	田宮俊作	文藝春秋

３年電子制御工学科　野田　祥子

蝉の羽	高里推奈	講談社
あなたへ	河崎愛美	小学館
ビートのディシプリン	上遠野浩平	メディアワークス

３年建築学科　田村　謙人

炎のメモリアル	ルイス・コリック	竹書房
トゥルー・コーリング	ジョン・ハーマン・フェルドマン	竹書房

２年電子制御工学科　尾田　崇

アホの壁 in USA	マイケル・ムーア	柏書房
嗤う日本のナショナリズム	北田暁大	日本放送出版協会
韓国は一個の哲学である	小倉紀蔵	講談社

２年物質工学科　田原　由樹

１リットルの涙	木藤亜也	幻冬舎
こんな夜更けにバナナかよ	渡辺一史	北海道新聞社
しんかいの奇妙ないきもの	太田秀	Ｇ.Ｂ.

１年電子制御工学科　小松　紀由

アリソン	時雨沢恵一	メディアワークス
手にとるように物理学がわかる本	青山智樹	かんき出版

１年建築学科　山本　順也

安くて納得のいく家を建てたい	宮沢俊哉	ダイヤモンド社
頭がいい人、悪い人の話し方	樋口裕一	ＰＨＰ研究所
凶器になる家ならない家	金谷年展	日経ＢＰ社
早わかり初歩のギター	新堀ギター音楽院	日東書院

1．平成１６年度利用状況

１．開館日数２４３日（時間内２０９日・時間外２０１日）

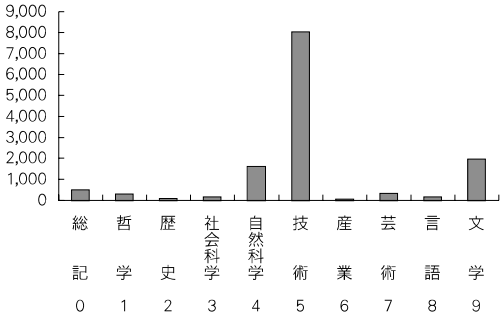
２．入館者数･貸出者数・貸出冊数

区　　分	学　生	職　員	一般の利用者	合　計
学生・教職員数	1,021人	126人	33人	1,180人
入館者数	46,681人		328人	47,009人
図書貸出者数	6,262人	250人	153人	6,665人
図書貸出冊数	11,960冊	564冊	598冊	13,122冊

2．NDC分類別貸出冊数・貸出率

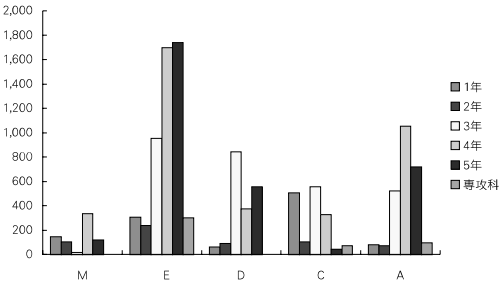
分　類	貸出冊数
0：総記	498
1：哲学	298
2：歴史	79
3：社会科学	158
4：自然科学	1,591
5：技術	8,009
6：産業	52
7：芸術	326
8：言語	152
9：文学	1,959
合　計	13,122

順位	分　類	貸出率(%)
1位	5：技術	61.0%
2位	9：文学	14.9%
3位	4：自然科学	12.1%
4位	0：総記	3.8%
5位	7：芸術	2.5%
6位	1：哲学	2.3%
7位	3：社会科学	6 1.2%
8位	8：言語	1.2%
9位	2：歴史	0.6%
10位	6：産業	0.4%
合　計		100%



3．平成16年度学生利用状況（学年・学科別貸出冊数）

	M	E	D	C	A	合計
1年	142	304	58	502	79	1,085
2年	104	236	89	101	69	599
3年	15	949	841	555	520	2,880
4年	331	1,696	374	324	1,048	3,773
5年	115	1,738	553	40	719	3,165
専攻科	297			67	94	458
合計	707	5,220	1,915	1,589	2,529	11,960



4．平成16年度学生利用冊数ベスト３

順　位	貸出回数	書　　名	著　者	出版社
1位	16回	ハリー・ポッターと不死鳥の騎士団	J.K.ローリング作 松岡佑子訳	静山社
2位	15回	蹴りたい背中	綿矢りさ	河出書房新社
3位	14回	Missing；合わせ鏡の物語・完結編（電撃文庫）	甲田学人	メディアワーク

（雑誌・専門図書を除く）

平成17年度　学生図書委員一覧

	1　年	2　年	3　年	4　年	5　年
M　科	橋浦　佑基	伊藤　講平	米田　祐二	松浦　俊輔	門脇　望
E　科	戸田隆太郎	關　さゆり	○高橋　裕也	笹間　友寛	大下　智史
D　科	小松　紀由	○尾田　崇	野田　祥子	深田賢史郎	廣田　麻衣
C　科	上田　瑞穂	田原　由樹	藤田　誠実	◎生田　寛子	松下　由佳
A　科	山本　順也	安川　大地	田村　謙人	民野　敬子	赤木　亮介

◎委員長　　○副委員長

平成17年度（32回）

校内読書・エッセイコンクール応募要項

●米子高専の学生であれば「読書感想文の部」「エッセイの部」いずれにも応募できます。
●読書感想文、エッセイともこれ以外の題目でもかまいません。

☆読書感想文の部

推薦図書

芥川龍之介	河童	新潮文庫	井伏鱒二	黒い雨	新潮文庫
スタインベック	二十日鼠と人間	新潮文庫	ヘミングウェイ	老人と海	新潮文庫
司馬遼太郎	竜馬がゆく	文春文庫	カフカ	変身	新潮文庫
夏目漱石	こころ	新潮文庫	吉本ばなな	TUGUMI（つぐみ）	中公文庫
遠藤周作	沈黙	新潮文庫	吉川英治	宮本武蔵	講談社
太宰治	人間失格	新潮文庫	阿部公房	砂の女	新潮文庫
カミュ	異邦人	新潮文庫	宮沢賢治	銀河鉄道の夜	新潮文庫
島崎藤村	破壊	新潮文庫	大岡昇平	野火	新潮文庫
＊梨木香歩	村田エフェンディ滞土録	角川書店	＊ミッチ・アルボム	天国の五人	日本放送出版協会
＊山本敏晴	アフガニスタンに住む彼女からあなたへ	白水社			

＊第51回青少年読書感想文全国コンクール課題図書

☆エッセイの部

以下の題目から一つ選んで、日頃自分の考えたり、思ったりしていることを自由な発想で書いてみて下さい。

●私の夢　●正義とは何か？　●ずっと疑問に思っていること　●戦争と平和を考える
●地球環境とわたしたちの未来　●自由と勝手はどうちがうのか？　●本当の友達とは？
●「恋愛」について　●やがて大人になるということ　●コンピューターと人間　●国際化時代の生き方

実施期間：夏休み
字　　数：両部門とも縦書き原稿用紙（400字詰）５枚以内
締　　切：８月25日（木）
提 出 先：各クラス図書委員が集めて担任へ（専攻科生は直接図書館まで）
審　　査：第１次審査（～９月１日（木）：クラス担任により部門ごとに５編以内を選定）
：第２次審査（～９月８日（木）：第１次審査選定作品の中から候補作品を選定）
：最 終 審 査（～９月20日（火）：図書館情報センター委員会において最優秀・優秀作品を決定）
審査委員：図書館情報センター長、副センター長、センター長補、図書館情報センター委員、国語科教員
表　　彰：部門ごとに、最優秀賞１編、優秀賞１編、佳作数編
賞状および副賞として図書券：最優秀賞　１万円券、優秀賞　５千円券、佳作　２千円券
表 彰 式：11月中
作品掲載：優秀作品は「としょぶらり」誌（80号）に掲載

☆　１～３年のうち、読書感想文の優秀作品は全国学校図書館協議会および毎日新聞社主催「第51回青少年読書感想文全国コンクール」の地方審査への応募も兼ねます。地方審査で優秀作品に選ばれると中央審査委員会で審査を受けることになります。

対象図書

第１類（フィクション）童話、小説、民話、神話、伝説、戯曲、詩歌など。
第２類（ノンフィクション）哲学、歴史、地誌、社会科学、自然科学、産業、芸術、スポーツ、語学、評論、伝記、随筆、紀行、生活記録、作文集、年鑑などの第１類以外の図書
第３類（主催者の指定した図書）上記の推薦図書のうち、＊がついたもの。

☆　エッセイの部の優秀作品は、校外コンクールに応募することもあります。

R100 古紙配合率100% 再生紙を使用しています